

第1回 国営明石海峡公園 神戸地区 基本計画改定委員会

議事要旨

日 時：令和5年3月15日（水）12時30分～14時00分

場 所：神戸地方合同庁舎1階 第3共用会議室（WEB形式併用）

出席者：出席者名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

- ・ 柳原事務所長より挨拶。

3 委員紹介

- ・ 事務局より委員紹介、各委員より挨拶。

4 委員会設置要綱について

- ・ 事務局より委員会設置要綱（案）について説明。
- ・ 委員より意見等なし。国営明石海峡公園神戸地区基本計画改定委員会設置要綱を施行。

5 委員長選出

- ・ 赤澤委員より中瀬委員の委員長への推薦があり、委員一同の賛同が得られ、中瀬委員を委員長に選出。
- ・ 中瀬委員長より挨拶。

6 議事

（1）国営明石海峡公園神戸地区の現状と課題について

- ・ 資料2について、事務局より説明。
- ・ これまでは当公園の自然保全や利活用において、市民参加で運営できていたので、これからは民間参加をどう促していくかが重要。
- ・ カーボンニュートラルや循環、生物多様性というキーワードを使って計画を立てていけるとよい。その中でも特に茅場づくりは重要な要素となる。
- ・ 国営公園の理念として、広域の方に利用してもらうことがあるが、多くの市民団体の方に利用してもらうことは広域利用の理念とは相反しないという理解でよいか。また、里山の管理はこれまで公共が行ってきたが、里山の魅力をアピールし、民間が里山の管理をするという新しい提案を求めてもよいのではないか。

(2) 基本計画改定の方向性について

- ・ 資料3-1、3-2について、事務局より説明。
- ・ 放置されている自然保全ゾーンでは植生遷移が進み、植物多様性が減少していると考える。今後の具体的な保全計画や必要に応じてモニタリング調査を継続して実施していくことが重要であると考える。保全の活動は市民団体や企業と協力して保全管理が出来る人材育成を行い、最終的にはプレーパークや自然観察会に繋がれるとよい。
- ・ キーナの森では、企業が社会貢献活動の1つとして里山の保全活動を実施している。
- ・ 公園管理者側の想いだけでなく、公園利用者側からの意見や課題を把握することも必要。
- ・ 公園に協力していきたい民間事業者は多いと考えるので、上手く連携していけるとよい。ただし、里山の保全ではなく、開発にはならないように気をつける必要がある。公園と連携したい意向はあってもノウハウが無い事業者もいると考えるので、意向のある事業者とノウハウを持った事業者をマッチングさせる仕組みができるとよい。
- ・ 自然保全と新しい里山の形を組み合わせ、上手く計画の中で表現できるとよい。
- ・ 地域貢献や広域利用に加えて、神戸空港の国際化に伴うインバウンドの集客も考慮できるとよい。当公園は伝統行事の再現が特徴的で、差別化できる要素だと考える。
- ・ 計画改定を行っていることを公園関係者にアピールし、関心を持ってもらうとよい。
- ・ 神戸空港の国際化や空飛ぶ車の実現化がある一方、人口減少が進んでいることも踏まえ、今現在でほぼ確定している未来の状況への対応やニーズを見据えて計画を立てることで、実現性が上がると考える。
- ・ 官民連携による公園利用の活性化や産学官民連携協働による持続可能な里山管理等は、当公園だけでなく、多くの都市公園の課題であるので、当公園でよい事例をつくり、全国に波及させていけるとよい。
- ・ 公園は地域の方の利用が非常に重要なので、日頃から地域の方や学校団体の方にレポートしてもらおう公園づくりが必要。
- ・ 地域の方との協働と、公園外への情報発信の2軸で進めていけるとよい。

7 その他

- ・ 第2回委員会は現地視察と併せて5月開催を予定。
- ・ 委員会資料及び議事要旨は、公園事務所ホームページに掲載予定。

8 閉会

以上